

「日々の理科」(第 2135 号) 2020, -5, 14

「巣の乗っ取り (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シジュウカラ、コガラ、ヤマガラなどの「カラ類」と呼ばれる野鳥は、本来は樹木の穴に巣を造って子育てをする。こうした性質を「樹洞性営巣」という。アカゲラ(キツツキ)があけた穴を利用したり、自然にできた「うろ」を使うこともある。しかし、住宅地でも産地でも慢性的な「住宅難」に陥っていて、3月～6月の繁殖期には、所かまわずに巣を造る。

民家の軒下の隙間、雨戸の戸袋、時には、横に積んだ植木鉢や郵便ポストまで利用する。人工的な巣箱も営巣率が高く、私が設置したものは、もう十年以上毎年繰り返し営巣している。



時には上の写真のように、巣箱の取り合いで決闘になることもある。その瞬間をとらえた、非常に珍しい写真である。この時は、巣造りを始めたヤマガラの巣箱にシジュウカラが侵入、激しい奪い合いになった。ヤマガラ(左)よりもシジュウカラ(右)のほうが若干体が大きく力もある。結局先客のヤマガラのほうが退散、途中まで完成していた巣は、シジュウカラに乗っ取られてしまった。こうした「乗っ取り」は、自然界でも珍しいことではない。北軽井沢のような自然の樹木がいくらでもある土地でも、一つの巣箱をめぐる争いが起きるほどの「住宅難」なのだ。



私の山荘は昭和 47 年築で、すでに 50 年近く経っている、世界遺産級の建物だ。外壁には穴がいくつも開いている。玄関の近くにも大きな穴がある。



穴を開けたのかコイツだ。「アカゲラ」が正式名称だが、私は「バカゲラ」と呼んでいる。要するにキツツキの一種だ。「木つつき」なのだから、木だけ叩いていればかわいいのだが、なぜか家屋の壁も叩く。



秋から春先は、朝早くからコンコンやっっていることが多い。「コラーッ！」と威嚇すると、「ケッ、ケッ、ケッ！」と馬鹿にしたような声で飛び去るが、すぐまた現れる。穴を開けて、巣にするのならまだ許せるが、そのまま何も使わないのだから、頭に来る鳥だ！